

(9) 植物成長調整剤使用時の注意

<CX-10>

- ・効果が劣ったり、薬害の恐れがあるので他剤との混用は避ける。
- ・散布直後の降雨は効果を減ずるので天候を見極めて散布する。
- ・散布や塗布の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を必ず着用するとともに、保護クリームを使用する。
- ・作業後は手足、顔などを石鹸でよく洗い、うがい、洗眼し、作業後24時間は飲酒しない。
- ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避ける。
- ・直射日光を避け、食品と区別して、低温な場所に密閉して保管する。
- ・有効期限をすぎると十分な効果が得られないので期限内に使用する。

<フィガロン乳剤>

- ・使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤との混用および本剤散布の約10日前から1～2日後までの近接散布は避ける。また上記以外の薬剤（温州みかんでのエスレル10との混用使用を除く）の場合も、本剤との混用および同日散布は避ける。
- ・使用の際は、薬液が葉先からしたたりはじめの程度にむらなく、丁寧に散布する。
- ・本剤は散布直後に降雨があった場合でも、再散布はしない。
- ・かんきつに使用する場合は、7～8年生以上の樹勢の安定した成木に使用し、若木や樹勢の弱い樹、生理障害が認められる園では、効果が不安定であるので使用しない。
- ・かんきつ及びかき以外の植物に対しても、ごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないように注意して散布する。
- ・使用後の散布器具などは十分に洗浄する。
- ・自動車などに散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意する。
- ・微量で植物に種々の影響があるので使用に際しては、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意する。
- ・温州みかん、伊予柑、ネーブル、きんかん以外のかんきつに本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効、薬害を十分確認してから使用する。

<ターム水溶剤>

- ・調製した薬液はその日の内に使用する。
- ・本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさける。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することはさける。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意する。
- ・散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるので、天候を見極めてから散布する。
- ・過度の乾燥、着果負担などによって極端に樹勢の低下した樹では旧葉の落葉を助長するので本剤の使用をさける。
- ・重複散布はさける。
- ・極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにする。
- ・使用後の散布器具等は十分洗浄する。

<エスレル10>

- ・調製には必ず水道水、井戸水を使用する。調製した薬液はその日のうちに使用する。
- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用および本剤散布の7～10日前後の近接散布は避ける。また上記以外の薬剤の場合も、本剤との混用および同日散布は避ける（フィガロン乳剤を除く）。
- ・展着剤の加用はしない。
- ・スピードスプレーヤでの散布は避ける。
- ・幼木、樹勢の弱い木、生理障害の出やすい木等では使用しない。異常な高低温、多雨、乾燥などの異常気象が続くときは、落果、異常果などの発生を助長する恐れがあるので、使用を避ける。
- ・異常高温時の散布は薬害を生じる恐れがあるので、使用を避ける。
- ・散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。万一散布後に降雨があった場合でも再散布はしない。
- ・一般作物にも微量で薬害を生じるので、周辺作物にかからないよう注意する。使用後の噴霧器などは十分洗浄する。

<ジベレリン>

- ・薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用する。
- ・ボルドー液等アルカリの強い薬剤との混用は避けること。